

# 浜の活力再生プラン

(第2期)

## 1 地域水産業再生委員会 (ID: 1130001)

組織名	香川県地域水産業再生委員会 小豆地区部会
代表者名	部会長 三木正幸

再生委員会の 構成員	土庄中央漁業協同組合、四海漁業協同組合、北浦漁業協同組合、唐櫃漁業協同組合、内海漁業協同組合、池田漁業協同組合 土庄町、小豆島町 香川県、香川県漁業協同組合連合会
オブザーバー	

対象となる地域の 範囲及び漁業の種類	<b>[範囲]</b> 香川県小豆島・豊島地域（土庄町、小豆島町） <b>[漁業の種類]</b> 小型機船底びき網漁業（102経営体）、小型定置網漁業（3経営体）、建網漁業（65経営体）、さわら流しさし網漁業（44経営体）、たこつぼ縄漁業（58経営体）、延べ縄漁業（41経営体）、ノリ養殖業（21経営体） 計334経営体
-----------------------	--

## 2 地域の現状

### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

小豆島は、高松市の約 20km 北東沖に位置し、備讃瀬戸東部から播磨灘西部に接している。その海岸線は変化に富み、多数の半島と入江があるため、好漁場を形成している。

豊島は、小豆島の西方 3.7km に位置する島で、かつて周辺海域は、世界最高の漁場と賞賛されるほどの好漁場であった。

漁業種類については、小型機船底びき網、さし網、小型定置網などの漁業が主要な漁業として営まれているほか、ノリ養殖業が漁業生産の中心となっている。

#### [漁船漁業]

小型底びき網漁業や小型定置網漁業が盛んであるが、域内の人口は 3 万人強と少なく、出荷先として岡山県や高松市などの消費地まで漁獲物を運ぶ必要がある。このため、燃油高騰による輸送経費の上昇、長時間労働、煩雑な作業などは漁業者の経営悪化をもたらしている。また、後継者不足に直面しており、特に零細な漁業については深刻な状況となっている。

#### [養殖業]

ノリ養殖業については、かつては香川県全体の生産額が 111 億円に達したこともあり、本県は国内でも有数なノリ生産地であったが、生産過剰により価格が急落し、経営体数は急激に減少した。

県下全体の 3 割弱のノリを生産が行われている小豆地区においても、経営体の減少は進んでいる。それに加え、近年の海水温の上昇による漁期の短縮化、冬季の栄養塩レベルの低下、漁業コストの向上により、ノリ養殖業の経営は非常に厳しい状況となっている。

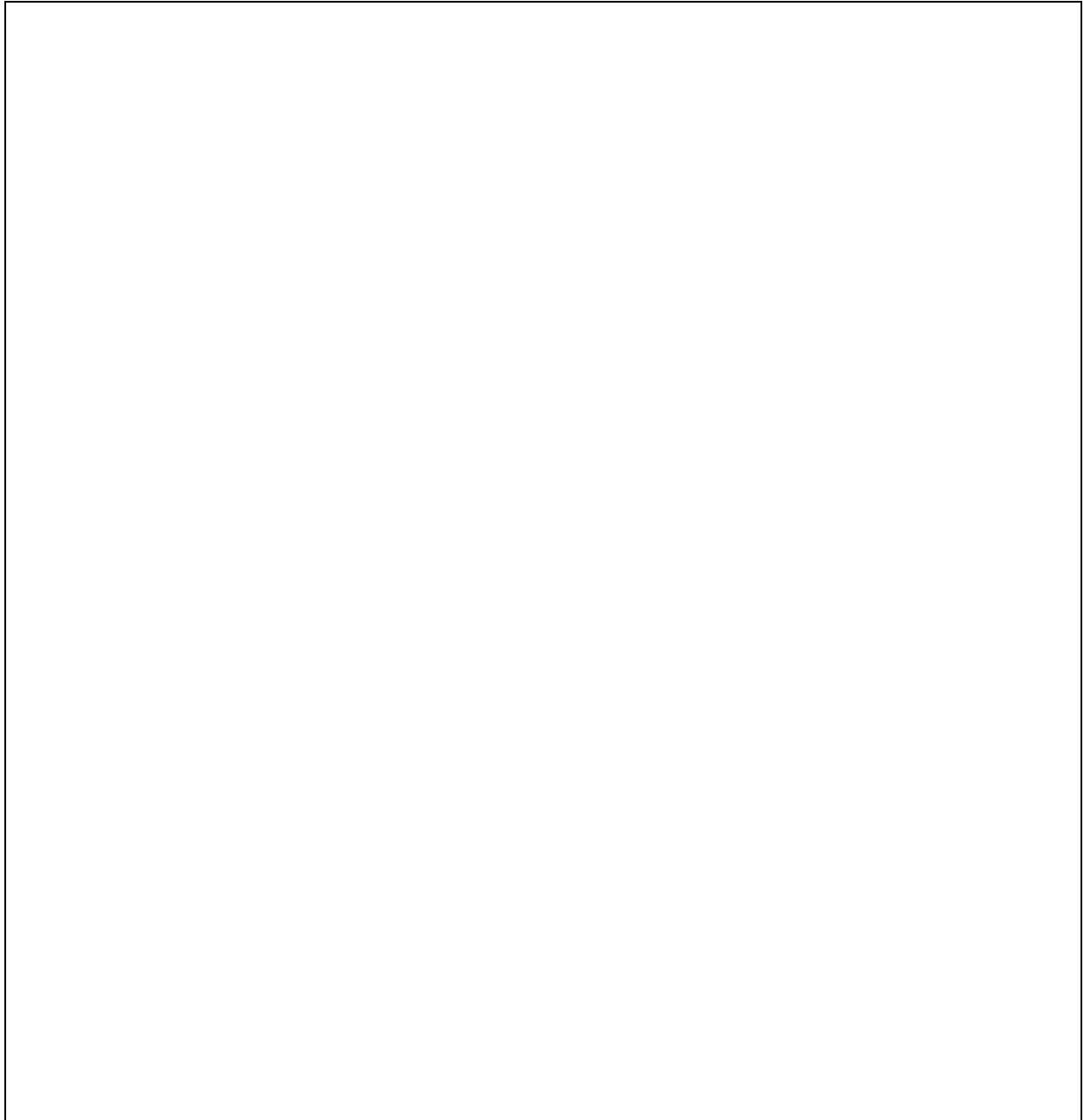
(2) その他の関連する現状等

- ・小豆島は、年間 100 万人を超える観光客が来島する、観光産業の盛んな島である。
- ・観光客に新鮮な魚料理を提供する飲食店が少ない。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



## (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

### ○漁業収入の向上

第1期で取組効果があり、継続・拡大する取組

- ・地元水産物の販路拡大及び販売促進
- ・水産食育活動等の推進
- ・ノリ養殖の振興
- ・収入の安定化

新規の取組

- ・浜の多面的機能発揮

### ○漁業コスト削減

第1期で取組効果があり、継続・拡大する取組

- ・省燃油対策の継続

第1期の取組内容を変更し、継続する取組

- ・ノリ養殖施設整備による作業の効率化及び施設の共同利用促進

### (3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

香川県資源管理指針に沿って各漁業協同組合が定めた資源管理計画に基づき、漁獲努力量の削減に努めており、その履行については香川県資源管理協議会が確認を行っている。

### (4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

取組の内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ、必要に応じ見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。（基準年より0.6%増加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地元水産物の販路拡大及び販売促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内で漁獲されるハモについて、共同出荷、蓄養出荷調整等の取り組みを継続し、ブランド地魚「島鱧」としての全国的な認知度の向上のため、継続的な品質向上や徹底した品質管理に努め、ハモ食の普及啓発を推進する。</li> <li>・地区内の全漁業者と漁協は、水産関連団体（香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等：以下同様）と連携し、学校給食関係者を交え、サワラフィレ等の水産物を地元の小中学校の給食部材として提供を検討する。</li> <li>・地元で採れたノリを加工した特産品（通販が可能となる保存食品等）について、地元企業等と連携しながら、開発検討に着手し、併せて販売先についても検討する。</li> <li>・2019年開催される「瀬戸内国際芸術祭」で小豆島を訪れる国内外の観光客を対象に、情報発信力の高いメディア関係者の協力を得ながら、食材提供やメニュー開発等により、地元水産物のPRを促進する。</li> </ul> </li> <li>○水産食育活動等の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の漁協及び漁業者が、県や水産関連団体と連携して県内の学校などで食育教室を拡大することにより幼少期から魚を食べる習慣を維持し、水産物の消費量拡大を図る。また子供を対象とした地曳網等の体験型のイベントを実施することで、幼少期から魚への興味・関心を抱かせ、将来の水産物の消費拡大を図る。</li> </ul> </li> <li>○ノリ養殖の振興 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖経営体は、コンビニエンスストアのおにぎり商材等における香川県産ノリの使用について、ノリ商社への販売促進を強化する。</li> <li>・ノリ養殖経営体は、漁協等と連携し、海底耕うん等の漁場管理や色落ち対策に取り組み、品質の向上による生産額の増加を目指す。</li> <li>・比較的設備投資が少なく新規での操業が容易なアオノリ養殖について、県内の生産拡大のため、アオノリ養殖適地選定の試験を実施する。</li> <li>・県内のノリ養殖経営体で組織する香川県海苔養殖研究会は、クロノリの品質向上・生産安定化のため、効果的な食害対策を検討し、試験を実施</li> </ul> </li> </ul>
---------------------	--

	<p>する。</p> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ぶらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> <p>○浜の多面的機能発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや干潟の保全及び藻礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> <p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
<b>漁業コスト削減のための取組</b>	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 0.4%削減)</p> <p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業に参加する地区内の漁業者は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・地区内の漁業者は、競争力の高い機器への換装を推進する。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul> <p>○ノリ養殖施設整備による作業の効率化及び施設の共同利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ加工段階での品質向上及び異物除去能力の高い機器を整備し、相対的な漁業コストの削減に努める。</li> <li>・地区内のノリ養殖経営体は、高額設備の初期投資費や運用管理費といった漁業コストの削減のため、施設の共同利用を検討する。</li> </ul>
<b>活用する支援措置等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・ノリ養殖等振興総合対策事業 [県]</li> <li>・地魚販路拡大対策事業 [県]</li> <li>・香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

## 2年目(平成32年度)

<b>漁業収入向上のための取組</b>	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。(基準年より 1.2%増加)</p> <p>○地元水産物の販路拡大及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内で漁獲されるハモについて、共同出荷、蓄養出荷調整等の取り組みを継続し、ブランド地魚「島鱧」としての全国的な認知度の向上のため、継続的な品質向上や徹底した品質管理に努め、ハモ食の普及啓発を推進する。</li> </ul>
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年に引き続き、地区内の全漁業者と漁協は、水産関連団体（香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等：以下同様）と連携し、学校給食関係者を交え、サワラフィレ等の水産物を地元の小中学校の給食部材として提供を検討する。</li> <li>・前年に引き続き、地元で採れたノリを加工した特産品（通販が可能となる保存食品等）について、地元企業等と連携しながら、試作品の製作に取り組み、販売方法についても検討する。</li> <li>・昨年開催された「瀬戸内国際芸術祭」を契機に、国内外から多くの観光客が訪れる小豆島において、漁村地域にも観光客を呼び込むことにより、新鮮な地元水産物を使用した飲食物を提供する。また、SNS等を活用しながら、瀬戸内海の魅力を継続的に国内外へ情報発信することにより、販路拡大を目指す。</li> </ul> <p>○水産食育活動等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の漁協及び漁業者が、県や水産関連団体と連携して県内の学校などで食育教室を拡大することにより幼少期から魚を食べる習慣を維持し、水産物の消費量拡大を図る。また子供を対象とした地曳網等の体験型のイベントを実施することで、幼少期から魚への興味・関心を抱かせ、将来の水産物の消費拡大を図る。</li> </ul> <p>○ノリ養殖の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖経営体は、コンビニエンスストアのおにぎり商材等における香川県産ノリの使用について、ノリ商社への販売促進を強化する。</li> <li>・ノリ養殖経営体は、漁協等と連携し、海底耕うん等の漁場管理や色落ち対策に取り組み、品質の向上による生産額の増加を目指す。</li> <li>・アオノリ養殖適地選定試験の結果を基に、アオノリ養殖の事業化を推進し、生産拡大と単価向上に取り組む。</li> <li>・県内のノリ養殖経営体で組織する香川県海苔養殖研究会は、クロノリの品質向上・生産安定化のため、効果的な食害対策を検討し、試験を実施する。</li> </ul> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ふらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> <p>○浜の多面的機能発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや干潟の保全及び藻礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> <p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
<p><b>漁業コスト削減</b></p>	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 0.8%削減)</p>

<p>のための取組</p>	<p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の結果を踏まえ、全漁業者は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・ 競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コスト化に取り組む。</li> <li>・ 漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul> <p>○ノリ養殖施設整備による作業の効率化及び協業化と施設の共同利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノリ加工段階での品質向上及び異物除去能力の高い機器を整備し、相対的な漁業コストの削減に努める。</li> <li>・ 地区内のノリ養殖経営体は、高額設備の初期投資費や運用管理費といった漁業コストの削減のため、施設の共同利用を検討する。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・ 漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・ 離島漁業再生支援交付金 [国]</li> <li>・ 浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・ 水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・ ノリ養殖振興総合対策事業 [県]</li> <li>・ 県産ノリ生産力向上安定化事業 [県]</li> <li>・ ノリ生産力向上対策事業 [県]</li> <li>・ アオノリ生産拡大推進事業 [県]</li> <li>・ 香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

### 3年目（平成33年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。（基準年より 1.8%増加）</p> <p>○地元水産物の販路拡大及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区内で漁獲されるハモについて、共同出荷、蓄養出荷調整等の取り組みを継続し、ブランド地魚「島鯉」としての全国的な認知度の向上のため、継続的な品質向上や徹底した品質管理に努め、ハモ食の普及啓発を推進する。</li> <li>・ 2年間の試行結果を踏まえ、地区内の全漁業者と漁協は、水産関連団体（香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等：以下同様）と連携し、学校給食関係者を交え、地元の小中学校の給食部材としての課題等を抽出し、提供回数増加に向けて取り組む。</li> <li>・ 地元で採れたノリを加工した特産品（通販が可能となる保存食品等）について、地元企業等と連携しながら、試作品の評価等を踏まえ、改良を加え、試験販売に取り組む。</li> <li>・ 「瀬戸内国際芸術祭」を契機に、国内外から多くの観光客が訪れる小豆島において、漁村地域にも観光客を呼び込むことにより、新鮮な地元水産物を使用した飲食物を提供する。また、SNS等を活用しながら、瀬戸内海の魅力を継続的に国内外へ情報発信することにより、販路拡大を目指す。</li> </ul> <p>○水産食育活動等の推進</p>
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の漁協及び漁業者が、県や水産関連団体と連携して県内の学校などで食育教室を拡大することにより幼少期から魚を食べる習慣を維持し、水産物の消費量拡大を図る。また子供を対象とした地曳網等の体験型のイベントを実施することで、幼少期から魚への興味・関心を抱かせ、将来の水産物の消費拡大を図る。</li> <li>○ノリ養殖の振興 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖経営体は、コンビニエンスストアのおにぎり商材等における香川県産ノリの使用について、ノリ商社への販売促進を強化する。</li> <li>・ノリ養殖経営体は、漁協等と連携し、海底耕うん等の漁場管理や色落ち対策に取り組み、品質の向上による生産額の増加を目指す。</li> <li>・事業化されたアオノリ養殖については、高品質化、効率化のための施設整備、漁場管理を実施し、更なる品質の向上を目指す。また東讃地区が共有するアオノリ種苗生産技術を参考に、当地区でのアオノリ種苗生産の実施を検討する。</li> <li>・県内のノリ養殖経営体で組織する香川県海苔養殖研究会は、効果的な食害対策を検討し、試験を実施する。また効果が示された食害対策について、県内のすべてのノリ養殖経営体と共有し、県内のクロノリ生産安定に努める。</li> </ul> </li> <li>○収入の安定化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ぶらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> </li> <li>○浜の多面的機能発揮 <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや干潟の保全及び藻礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> </li> <li>○漁港機能強化等の施設整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul> </li> </ul>
<b>漁業コスト削減のための取組</b>	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 1.2%削減)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○省燃油対策の継続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の結果を踏まえ、全漁業者は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コスト化に取り組む。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul> </li> <li>○ノリ養殖施設整備による作業の効率化及び施設の共同利用促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ加工段階での品質向上及び異物除去能力の高い機器を整備し、相対的な漁業コストの削減に努める。</li> <li>・地区内のノリ養殖経営体は、高額設備の初期投資費や運用管理費とい</li> </ul> </li> </ul>



	った漁業コストの削減のため、施設の共同利用に向けたマッチング活動を実施する。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・離島漁業再生支援交付金 [国]</li> <li>・浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・ノリ養殖等振興総合対策事業 [県]</li> <li>・香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

#### 4年目（平成34年度）

漁業収入向上のための取組	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。（基準年より2.4%増加）</p> <p>○地元水産物の販路拡大及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内で漁獲されるハモについて、共同出荷、蓄養出荷調整等の取り組みを継続し、ブランド地魚「島鱧」としての全国的な認知度の向上のため、継続的な品質向上や徹底した品質管理に努め、ハモ食の普及啓発を推進する。</li> <li>・地区内の全漁業者と漁協は、水産関連団体（香川県漁業協同組合連合会、さぬき海の幸販売促進協議会等：以下同様）と連携し、学校給食関係者を交え、前年の課題抽出結果を踏まえて、次年度の本格実施に向けた改良を加えるとともに、新たな給食部材を抽出する。</li> <li>・地元で採れたノリを加工した特産品（通販が可能となる保存食品等）について、地元企業等と連携しながら、前年の改良した商品については、販路の拡大に取り組み、併せて、新たな商品についても検討する。</li> <li>・「瀬戸内国際芸術祭」を契機に、国内外から多くの観光客が訪れる小豆島において、漁村地域にも観光客を呼び込むことにより、新鮮な地元水産物を使用した飲食物を提供する。また、SNS等を活用しながら、瀬戸内海の魅力を継続的に国内外へ情報発信することにより、販路拡大を目指す。</li> </ul> <p>○水産食育活動等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の漁協及び漁業者が、県や水産関連団体と連携して県内の学校などで食育教室を拡大することにより幼少期から魚を食べる習慣を維持し、水産物の消費量拡大を図る。また子供を対象とした地曳網等の体験型のイベントを実施することで、幼少期から魚への興味・関心を抱かせ、将来の水産物の消費拡大を図る。</li> </ul> <p>○ノリ養殖の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ養殖経営体は、香川県産ノリをコンビニエンスストアで販売しているおにぎり等に使用してもらうように、ノリ商社への販売促進を強化する。</li> <li>・ノリ養殖経営体は、漁協等と連携し、海底耕うん等の漁場管理や色落ち対策に取り組み、品質の向上による生産額の増加を目指す。</li> <li>・事業化されたアオノリ養殖については、高品質化、効率化のための施設整</li> </ul>
--------------	---

	<p>備、漁場管理を実施し、更なる品質の向上を目指す。また東讃地区が共有するアオノリ種苗生産技術を参考に、当地区でのアオノリ種苗生産に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内のノリ養殖経営体で組織する香川県海苔養殖研究会は、効果的な食害対策を検討し、試験を実施する。また効果が示された食害対策について、県内のすべてのノリ養殖経営体と共有し、県内のクロノリ生産安定に努める。</li> </ul> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ぶらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> <p>○浜の多面的機能発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者は、漁協の協力得てゴミ掃除等の沿岸域の環境美化、漂流漂着物の処理等を推進する。</li> <li>・漁業者は、漁協等の協力を得て、海底耕うんや干潟の保全及び藻礁の設置等による漁場環境の保全活動に努め、稚魚放流等の資源造成や資源管理の取り組みを実施する。</li> </ul> <p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
<p><b>漁業コスト削減のための取組</b></p>	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 1.6%削減)</p> <p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の結果を踏まえ、全漁業者は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コスト化に取り組む。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul> <p>○ノリ養殖施設整備による作業の効率化及び施設の共同利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ加工段階での品質向上及び異物除去能力の高い機器を整備し、相対的な漁業コストの削減に努める。</li> <li>・地区内のノリ養殖経営体は、高額設備の初期投資費や運用管理費といった漁業コストの削減のため、施設の共同利用に向けたマッチング活動を実施する。</li> </ul>
<p><b>活用する支援措置等</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・離島漁業再生支援交付金 [国]</li> <li>・浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・ノリ養殖等振興総合対策事業 [県]</li> <li>・香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

5年目（平成35年度）

取組の最終年であり、以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするよう、プランの取組の成果を検証し必要な見直しを行う。

漁業収入向上のための取組	<p>漁業収入向上のため、次の取組を実施する。（基準年より3.0%増加）</p> <p>○地元水産物の販路拡大及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地区内で漁獲されるハモについて、共同出荷、蓄養出荷調整等の取り組みを継続し、ブランド地魚「島鱧」としての全国的な認知度の向上のため、継続的な品質向上や徹底した品質管理に努め、ハモ食の普及啓発を推進する。</li><li>・地区内の全漁業者と漁協は、水産関連団体と連携し、学校給食関係者を交え、水産物を地元の小中学校の給食部材への提供について、これまでの取組結果を踏まえ、本格的な提供を開始する。 また、本取組により、新たな販路を確保しつつ、児童に対する魚食普及を図るとともに、前年に抽出した新たな食材についても検討を開始する。</li><li>・地元で採れたノリを加工した特産品の開発については、これまでの取組結果を踏まえ、県内外に更なる販路拡大（小売店・通信販売等）への販売促進を行い、販売経路を確保し、販売も積極的に行う。また、新たな商品開発に取り組む。</li><li>・「瀬戸内国際芸術祭」を契機に、国内外から多くの観光客が訪れる小豆島において、漁村地域にも観光客を呼び込むことにより、新鮮な地元水産物を使用した飲食物を提供する。また、SNS等を活用しながら、瀬戸内海の魅力を継続的に国内外へ情報発信することにより、販路拡大を目指す。</li></ul> <p>○水産食育活動等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地区内の漁協及び漁業者が、県や水産関連団体と連携して県内の学校などで食育教室を拡大することにより幼少期から魚を食べる習慣を維持し、水産物の消費量拡大を図る。また子供を対象とした地曳網等の体験型のイベントを実施することで、幼少期から魚への興味・関心を抱かせ、将来の水産物の消費拡大を図る。</li></ul> <p>○ノリ養殖の振興</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ノリ養殖経営体は、香川県産ノリをコンビニエンスストアで販売しているおにぎり等に使用してもらうように、ノリ商社への販売促進を強化する。</li><li>・ノリ養殖経営体は、漁協等と連携し、海底耕うん等の漁場管理や色落ち対策に取り組み、品質の向上による生産額の増加を目指す。</li><li>・事業化されたアオノリ養殖については、高品質化、効率化のための施設整備、漁場管理を実施し、更なる品質の向上を目指す。また東讃地区が共有するアオノリ種苗生産技術を参考に、当地区でのアオノリ種苗生産に取り組み、県漁連等と連携し、県内での共販開催を目指す。</li><li>・県内のノリ養殖経営体で組織する香川県海苔養殖研究会は、効果的な食害対策を検討し、試験を実施する。また効果が示された食害対策について、県内のすべてのノリ養殖経営体と共有し、県内のクロノリ生</li></ul>
--------------	--

	<p>産安定に努める。</p> <p>○収入の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁協は、漁業共済、積立ぶらすへの加入を促進し、自然災害や不漁などに起因した漁業収入の不安定に備える。</li> </ul> <p>○漁港機能強化等の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の全漁業者は、漁協の協力を得ながら、クレーン設備等の作業効率化を図るため、漁港機能の強化を計画的に実施する。</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>漁業コスト削減のため、次の取組を実施する。(基準年より 2.0%削減)</p> <p>○省燃油対策の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全漁業者は、減速航行、船底清掃を実施し、燃料の消費を削減する。</li> <li>・競争力の高い機器に換装した地区内の漁業者は競争力強化型機器による操業により、省力・省コスト化に取り組む。</li> <li>・漁協は、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</li> </ul> <p>○ノリ養殖施設整備による作業の効率化及び施設の共同利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノリ加工段階での品質向上及び異物除去能力の高い機器を整備し、相対的な漁業コストの削減に努める。</li> <li>・地区内のノリ養殖経営体は、施設の共同利用に取り組み、漁業コストの削減に努める。</li> </ul>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業人材育成総合支援事業 [国]</li> <li>・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]</li> <li>・離島漁業再生支援交付金 [国]</li> <li>・浜の活力再生交付金 [国]</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業 [国]</li> <li>・ノリ養殖等振興総合対策事業 [県]</li> <li>・香川県水産振興総合対策事業 [県]</li> </ul>

#### (5) 関係機関との連携

<p>○香川県水産試験場との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産試験場が行う資源管理に関する調査の結果を基に、効率的な資源管理に努める。</li> <li>・当地域での水質等に適した養殖技術について研究を共同で行う。</li> </ul> <p>○他地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域の漁業協同組合とも連携し、運送の共同運行などにより流通コストの削減を目指す。</li> </ul>
---

#### 4 目標

##### (1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上	基準年	平成 25～29 年の 5 中 3 平均：漁業所得	千円
	目標年	平成 35 年度：漁業所得	千円

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

- 基準年については、香川農林水産統計年報で示されている漁船漁業、小型定置網漁業、海面養殖業（ぶり、のり、かき）の漁労所得に各年時点の各経営体数を乗じて得た総所得を基に、算出した 1 期目プランの基準年および各取組年の漁業所得の 5 中 3 平均で算出した。
- 目標年の漁業所得については、浜の活力再生プランの 5 年間の取組み実施し、次のとおり収入を 3.0%向上させ、コストを 2.0%削減することにより、基準年と比較し 10.3%の所得向上を達成する。

基準年からの所得向上割合 (単位：%)

	収入向上	コスト削減	所得向上
1 年目 (31 年度)	0.6	0.4	2.1
2 年目 (32 年度)	1.2	0.8	4.1
3 年目 (33 年度)	1.8	1.2	6.2
4 年目 (34 年度)	2.4	1.6	8.2
5 年目 (35 年度)	3.0	2.0	10.3

##### (3) 所得目標以外の成果目標

1 組合員当たり販売・購買事業 取扱高の 15%以上の向上	基準年	平成 25～29 年度 5 ヶ年平均	千円
	目標年	平成 31～35 年度 5 ヶ年平均	千円

##### (4) 上記の算出方法及びその妥当性

- 基準年の算出方法は、地区内漁業協同組合業務報告書（平成 25 年～29 年）で示されている販売事業取扱高と購買事業供給高の合計額を地区内組合員数で除した、過去 5 年間ににおける 1 組合員当たりの販売・購買事業取扱高平均値（ 千円）とした。
- 目標年の設定は、浜の活力再生プランの取組みを実施することにより、下記のとおり、地区内 1 組合員当たりの販売・購買事業取扱高の年間向上率 5%を設定し、プラン期間内平均値を基準より 15%向上させ、弱体化する漁協組織基盤を改善する。

基準年：H25～29 年度地区内 1 組合員当たりの購買・販売事業取扱高平均値（ 千円）

1 組合員当たり販売・購買事業取扱高、向上割合

	取扱高	対基準年向上率 (%)
1 年目 (31 年度)		5.0
2 年目 (32 年度)		10.0
3 年目 (33 年度)		15.0
4 年目 (34 年度)		20.0
5 年目 (35 年度)		25.0
5 ヶ年平均		15.0

--

## 5 関連施策

### 活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業人材育成総合支援事業 [国]	意欲のある新規漁業就業者の安定的な確保・定着を図るため、漁業の将来を担う人材を育成支援し、浜の活力再生プランで目指す漁村地域の活性化に寄与する。
・漁業経営セーフティネット構築事業 [国]	燃油経費への負担を軽減し、漁業コストを削減することにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。
・水産多面的機能発揮対策事業 [国]	沿岸域の環境美化、藻場・干潟の保全、海難救助など、浜の持つ多面的機能を発揮する活動を実施することにより、浜の活力再生プランで目指す漁村地域の活性化に寄与する。
・離島漁業再生支援交付金 [国]	漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組みを行うことにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。
・浜の活力再生交付金（水産関係地方公共団体交付金等実施要領に係るもの） [国]	水産資源の持続的な利用・管理の推進、水産業経営の強化及び漁港機能の強化等を図ることにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。
・香川県水産振興総合対策事業 [県]	水産物の販売促進、食育活動等に取り組むことにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。

<p>・ノリ養殖振興総合対策事業[県]</p>	<p>ノリの色落ち・食害対策等による生産安定化や新たな藻類養殖の普及に取り組むことより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。</p>
<p>地魚販路拡大対策事業 [県]</p>	<p>地魚に付加価値を付けるための施設整備や販売促進活動に取り組むことにより、浜の活力再生プランで目指す漁業者の収入増に寄与する。</p>